

会員事業所景況実態調査令和5年1月～令和5年3月分集計結果
調査依頼数:570 回答数 72 回答割合:12.6%

令和4年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した10月～12月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	15	32	25	72	▲ 13.9	▲ 23.5	9.6
	採算	8	40	24	72	▲ 22.2	▲ 32.4	10.2
	仕入単価	0	19	51	70	▲ 72.9	▲ 80.9	8.0
	従業員	23	44	3	70	28.6	28.8	▲0.2
	業況	8	39	25	72	▲ 23.6	▲ 27.9	4.3
	資金繰り	4	56	10	70	▲ 8.6	▲ 14.9	6.3
建設・建築業	売上	2	7	5	14	▲ 21.4	▲ 40.0	18.6
	採算	2	10	2	14	0.0	▲ 45.0	45.0
	仕入単価		3	11	14	▲ 78.6	▲ 85.0	6.4
	従業員	5	8	1	14	28.6	45.0	▲16.4
	業況		11	3	14	▲ 21.4	▲ 20.0	▲1.4
	資金繰り		12	2	14	▲ 14.3	▲ 15.0	0.7
製造業	売上	2	4	6	12	▲ 33.3	▲ 36.4	3.1
	採算		6	6	12	▲ 50.0	▲ 45.5	▲4.5
	仕入単価		2	10	12	▲ 83.3	▲ 81.8	▲1.5
	従業員	1	9	2	12	▲ 8.3	18.2	▲26.5
	業況		6	6	12	▲ 50.0	▲ 54.5	4.5
	資金繰り		10	2	12	▲ 16.7	▲ 18.2	1.6
卸・小売業	売上	4	1	5	10	▲ 10.0	▲ 40.0	30.0
	採算	3	3	4	10	▲ 10.0	▲ 33.3	23.3
	仕入単価		1	8	9	▲ 88.9	▲ 86.7	▲2.2
	従業員	2	7		9	22.2	0.0	22.2
	業況	3	2	5	10	▲ 20.0	▲ 40.0	20.0
	資金繰り	1	6	2	9	▲ 11.1	▲ 26.7	15.6
飲食・サービス業	売上	5	11	3	19	10.5	6.3	4.2
	採算	2	13	4	19	▲ 10.5	▲ 6.3	▲4.2
	仕入単価		8	11	19	▲ 57.9	▲ 68.8	10.9
	従業員	9	10		19	47.4	26.7	20.7
	業況	4	10	5	19	▲ 5.3	▲ 6.3	1.0
	資金繰り	3	13	3	19	0.0	▲ 6.7	6.7
不動産・その他	売上	2	9	6	17	▲ 23.5	16.7	▲40.2
	採算	1	8	8	17	▲ 41.2	▲ 33.3	▲7.9
	仕入単価		5	11	16	▲ 68.8	▲ 83.3	14.6
	従業員	6	10		16	37.5	66.7	▲29.2
	業況	1	10	6	17	▲ 29.4	▲ 33.3	3.9
	資金繰り		15	1	16	▲ 6.3	0.0	▲6.3

(全体)

全項目において前回よりも若干改善している。しかしながら、仕入単価は依然としてDI値▲70ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員では前回より若干人手不足感が弱まるが、依然として人手不足感が強い状態が続いている。

(建設・建築業)

業況以外は前回より改善しており、特に採算はDI値45ポイント以上改善しDI値もプラスマイナスゼロまで回復している。仕入単価は依然としてDI値▲80ポイント近くと高い状態が続いている。従業員では、前回よりDI値が15ポイント以上改善し人手不足感が弱まったが、依然として人手不足感が強い状態が続いている。

(製造業)

採算、仕入単価、従業員以外は前回よりも若干改善しているが、DI値を見ると売上は▲30ポイント以上、業況は▲50ポイント以上と依然としてマイナスポイントが高い状態が続いている。採算、仕入単価のDI値は、採算が▲50ポイント以上、仕入単価は▲80ポイント以上とマイナスポイントが依然として高くなっている。従業員では人手不足感から人手過剰感に転じている。

(卸・小売業)

仕入単価、従業員以外は前回よりもDI値15ポイント以上と大幅に改善している。売上、採算、資金繰りはDI値が▲10ポイント台まで回復している。仕入単価は前回から若干しか悪化していないが、DI値は依然として▲90ポイント近くとマイナスポイントが非常に高い状態が続いている。従業員では人手不足感に転じている。

(飲食・サービス業)

採算、従業員以外は前回より若干改善しており、特に売上ではDI値が10ポイント以上、資金繰りではDI値が0まで回復している。仕入単価は依然としてDI値が▲50ポイント以上と高い状態が続いている。従業員では前回より人手不足感が大幅に強くなっている。

(不動産・その他)

売上、採算、資金繰り以外は前回より改善しているが、仕入単価は依然としてDI値が▲70ポイント近くとマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員では大幅に改善して人手不足感が弱まっている。売上は前回よりDI値40ポイント以上悪化しており、採算は前回より若干しか悪化していないが、DI値は▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなっている。

【質問 A】 3月と比較した4月～6月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	9	41	21	71	▲16.9	▲19.7	2.8
	採算	5	43	23	71	▲25.4	▲37.3	11.9
	仕入単価	1	20	48	69	▲68.1	▲80.6	12.5
	従業員	26	43	1	70	35.7	31.8	3.9
	業況	8	40	22	70	▲20.0	▲34.3	14.3
	資金繰り	5	54	11	70	▲8.6	▲18.2	9.6
建設・建築業	売上	2	11	1	14	7.1	▲40.0	47.1
	採算	1	11	2	14	▲7.1	▲55.0	47.9
	仕入単価		2	12	14	▲85.7	▲90.0	4.3
	従業員	9	5		14	64.3	50.0	14.3
	業況		12	2	14	▲14.3	▲25.0	10.7
	資金繰り		12	2	14	▲14.3	▲20.0	5.7
製造業	売上	2	5	5	12	▲25.0	▲18.2	▲6.8
	採算		6	6	12	▲50.0	▲54.5	4.5
	仕入単価		3	9	12	▲75.0	▲63.6	▲11.4
	従業員	1	10	1	12	0.0	9.1	▲9.1
	業況		5	6	11	▲54.5	▲63.6	9.1
	資金繰り		9	3	12	▲25.0	▲27.3	2.3
卸・小売業	売上	2	3	4	9	▲22.2	▲7.7	▲14.5
	採算	1	5	4	10	▲30.0	▲28.6	▲1.4
	仕入単価	1	1	7	9	▲66.7	▲92.9	26.2
	従業員	1	8		9	11.1	7.1	4.0
	業況	3	2	5	10	▲20.0	▲42.9	22.9
	資金繰り	1	6	2	9	▲11.1	▲28.6	17.5
飲食・サービス業	売上	2	12	5	19	▲15.8	▲12.5	▲3.3
	採算	2	13	4	19	▲10.5	▲6.3	▲4.2
	仕入単価		9	10	19	▲52.6	▲68.8	16.2
	従業員	8	11		19	42.1	33.3	8.8
	業況	3	12	4	19	▲5.3	▲18.8	13.5
	資金繰り	4	13	2	19	10.5	▲6.7	17.2
不動産・その他	売上	1	10	6	17	▲29.4	0.0	▲29.4
	採算	1	8	7	16	▲37.5	▲50.0	12.5
	仕入単価		5	10	15	▲66.7	▲83.3	16.6
	従業員	7	9		16	43.8	66.7	▲23.0
	業況	2	9	5	16	▲18.8	▲33.3	14.6
	資金繰り		14	2	16	▲12.5	0.0	▲12.5

(全体)

従業員以外は前回より改善する見通しとなるが、仕入単価は依然としてDI値は▲70ポイント近くとマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。従業員では前回より若干ではあるが人手不足感が強まる見通しとなる。

(建設・建築業)

従業員以外では前回より改善する見通しとなり、特に売上、採算はDI値40ポイント以上改善し、売上ではプラスに転じる見通しとなる。仕入単価は依然としてDI値▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。従業員ではDI値が60ポイント以上となり、人手不足感がさらに強まる見通しとなる。

(製造業)

売上、仕入単価以外は若干であるが改善する見通しとなるが、採算、業況は依然としてDI値▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。従業員では、DI値が0となり人手不足感がなくなる見通しとなる。仕入単価ではDI値が10ポイント以上悪化し、▲70ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しとなる。

(卸・小売業)

売上、採算、従業員以外は前回より大幅に改善する見通しとなり、特に仕入単価ではDI値が20ポイント以上と大幅に改善する見通しとなる。依然としてDI値は▲60ポイント以上と高い状態が続く見込みとなる。売上では前回より10ポイント以上と大幅に悪化する見通しとなる。

(飲食・サービス業)

売上、採算、従業員以外は前回より10ポイント以上改善する見通しとなり、資金繰りはDI値がプラスに転じる見通しとなる。仕入単価では依然としてDI値が▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。売上、採算、従業員では前回よりDI値が若干しか悪化しない見通しとなるが、従業員ではDI値が40ポイント以上となり、人手不足感がさらに強まる見通しとなる。

(不動産・その他)

売上、資金繰り以外は前回よりDI値が10ポイント以上改善する見通しとなるが、依然として採算は▲30ポイント以上、仕入単価は▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。従業員も人手不足感が弱まる見通しだが、依然としてDI値は40ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。売上は前回よりDI値が30ポイント近く悪化しマイナスに転じる見通しとなる。

